

**英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
 廃止措置研究・人材育成等強化プログラム
 事後評価総合所見**

研究課題名：廃炉に関する基盤研究を通じた創造的人材育成プログラム ―高専間ネットワークを活用した福島からの学際的チャレンジ―

研究代表者（研究機関名）：佐藤 正知→青柳 克弘（福島工業高等専門学校）

再委託先研究責任者（研究機関名）：河原林 順（東京都市大学）

再委託先研究責任者（研究機関名）：秋光 信佳（東京大学）

再委託先研究責任者（研究機関名）：吉田 政弘（東京都立産業技術高等専門学校）

再委託先研究責任者（研究機関名）：勝山 幸三（日本原子力研究開発機構）

再委託先研究責任者（研究機関名）：高橋 俊行（株式会社タンガロイ）

研究期間：平成27年度～令和元年度（5年計画） 270百万円

項目	要約
1. 研究の概要	<p>高専機構は、福島高専を中心として、全国各地の高等専門学校での本科の卒業研究や専攻科の特別研究を通じて廃止措置に関する基盤研究を実施し、研究を通じた人材育成を進める。研究を支える教育プログラムでは、新たにいくつかの講義や実験、人間力を高めるインターンシップを実施する。また、廃炉に関する施設を利用して研究・教育に役立てる。以上の取組を通じて中長期的な観点から高い志と幅広い知識を持った学生を育てることを目的として、以下の研究および人材育成を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基盤研究を通じた人材育成 2) 教育プログラム
2. 総合評価	<div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="background-color: #cccccc; width: 30px; height: 30px; text-align: center; line-height: 30px; margin-right: 10px;">S</div> <ul style="list-style-type: none"> ・当初想定を超える多くの高専の協力を得て、小規模な研究課題を多数設定し、多くの学生に廃炉研究に参加してもらう体制を構築する等システムティックに若い人材を育成したことが高く評価できる。 ・地域に根差して多くの学生が地元のために考え、探求していくことは重要であり、また、復興のために正しい知識（情報）が地域に正しく伝わることへの社会科学的な要素も期待できる。 ・廃炉ロボコンの実施など、学生が廃止措置に興味を持ちやすい取組を行ったことも評価できる。 ・学会発表や論文投稿数も多く、人材育成効果があったと考えられる。 </div> <div style="margin-bottom: 10px;">S) 特筆すべき優れた成果があげられている</div> <div style="margin-bottom: 10px;">A) 優れた成果があげられている</div> <div style="margin-bottom: 10px;">B) 相応の成果があげられている</div> <div style="margin-bottom: 10px;">C) 部分的な成果に留まっている</div> <div style="margin-bottom: 10px;">D) 成果がほとんどあげられていない</div>